地域と福祉を心でつなぐ

NETWORK ネットワークこぶし

2022
10
通巻36号
令和4年10月発行

巻　頭

総合施設長就任のご挨拶
社会福祉法人長岡福祉協会　高齢者総合ケアセンターこぶし園　総合施設長　船越芳之

住み慣れた地域で生活を続けたい
～そんなニーズに応えられるような地域密着型サービスにおける運営推進会議の意味と役割について～
社会福祉法人長岡福祉協会　特別養護老人ホームこぶし園　業務部長　佐藤佳代

トピックス

・運営推進会議とは
～小規模多機能型居宅介護事業所からのプロセス～

・看護小規模多機能型居宅介護のしくみ
～長岡市における看多機大島の存在意義～

・こぶし園の住居系サービスの紹介
～在宅支援型住宅・バリアフリー住宅・サービス付き高齢者向け住宅・ケアハウス～

こぶし園　インフォメーション

SINCE 1982
KOBUSHIEN
The system of all-inclusive care for the elderly
高齢者総合ケアセンター
こぶし園

総合施設長就任のご挨拶

高齢者総合ケアセンターこぶし園
総合施設長　舩越　芳之

日頃より、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様からご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

この度、令和4年10月1日付で高齢者総合ケアセンターこぶし園　総合施設長に就任しました舩越芳之と申します。

遡ること27年前の平成7年4月、私の社会人としてのスタートはこのこぶし園でした。

何もわからない私に多くの経験を与えてくれたのがこぶし園です。改めて、今までこぶし園にかかわられた方、こぶし園を支えてくださった沢山の方々に恩返しをする時が来たのだと感じています。微力ではございますがこの責任の重さを理解し、誠心誠意つとめてまいります。

さて、こぶし園の理念は「その人の築き上げてきた暮らしを支える」です。こぶし園はそれを具現化する為に、24時間365日連続するサービス、人の暮らしを面（地域）として考えた地域単位でのサービスの拠点作り等々、今では当たり前となったシステムの構築に取り組んでまいりました。この理念はこれからも変わることはありません。

そして、私たちの仕事、使命は常にご利用者様とご家族様自身、そしてご利用者様とご家族様が生活する地域社会の為に存在します。この尊い仕事に携われることに、こぶし園で働くスタッフ全員が喜びと誇りを感じてほしいと思います。

偉大なる諸先輩方が作り上げてきた「地域包括ケアシステム」。この重く大きな、大切な仕組みを持続可能なものとして次の世代に引き継ぐため、素晴らしいスタッフと共に皆様の為に力を尽くしていきたいと思います。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

住み慣れた地域で生活を続けたい
～そんなニーズに応えられるような地域密着型サービスにおける運営推進会議の意味と役割について～

特別養護老人ホームこぶし園
業務部長　佐藤　佳代

今回の誌面で、「運営推進会議」を取り上げます。

運営推進会議は、介護保険法に基づき、地域密着型サービス事業者が、利用者の家族や地域住民の代表者等に、提供しているサービス内容を明らかにすることで、地域に開かれたサービスとし、サービスの質の確保を図ることを目的としています。園内2事業所の取り組みを紹介させていただきます。

最後に、秋が深まってまいりましたが、皆様におかれましては、日々の健康管理に気を付けていただき、充実した日々が送れます事心より祈念致します。

【目的と役割】

1. 地域の方々やご利用者、ご家族等に対して、「事業所でどのようなサービスを行っているのか」情報を公開し、事業所を知ってもらうことです。
2. プライバシー保護のため、介護現場では、外からの目が入りにくい所があります。事業所以外の様々な視点から、事業所の取り組みについて意見を頂く機会をつくることは、客観的にみた「当たり前」の暮らしを提供しやすくなります。
3. 利用者が選べるはずのサービスを「自分たちのサービス以外認めない」「すべてのサービスを自分たちが提供する」といった「抱え込み防止」です。
4. 「顔なじみや気心の知れた人たちと過ごしていきたい」という想いを繋げるためには、「地域との連携の確保」がとても重要な役割があります。

専門職の人たちとの連携だけでは、今まで通りの暮らしを続けることは大変です。地域の皆さんに、利用者の様子を知って頂くことで、一緒にイベントを催すなどの地域活動にも繋がります。

よって、高齢化が進む中で、介護サービスの話だけでなく、「買い物に行けない」、「雪かきができない」などの地域特有の課題もあります。

地域の皆さんと高齢者を支えていくことを共に考えていくのも、運営推進会議の重要な役割ではないでしょうか。

【構成メンバー】

・主に、ご利用者、ご家族の代表、町内会役員、民生委員の代表者、市町村職員、地域包括支援センター職員、医療介護の専門職等と幅広い視点から、「地域のこと＝自分のこと（我が事）」と捉えたチームで、より住みやすい地域づくりを会議の中で話し合い、事業所と共に考えていきます。

【最後に】

・運営推進会議を通して、ひとりのご利用者を取りまく生活や関係性を支える事業所運営の透明性と質を確保し、また地域を存続していくために、介護だけに限らず、地域全体のことを自分自身のことと捉え、今後も地域住民と事業所の垣根を越えたよりよいものになるように考えていきたいと思います。

運営推進会議とは
～小規模多機能型居宅介護事業所からのプロセス～

運営推進会議の紹介
～地域の皆様とともに支えあう事業所であるために～

小規模多機能型居宅介護美沢
管理者　川上 喜代子

【サポートセンター美沢の具体的な取り組み】

2か月に1回、当センターにメンバーの皆様よりご来所いただき、直接ご利用者の活動や普段の生活、センターの雰囲気など見ていただいています。事業所の状況報告の他に、毎回テーマを決め、課題事例の検討を行ったり、防災の取り組みとして、防災訓練（消火器訓練や避難訓練）に一緒に参加していただいたりもしております。

しかし、この2年間は、新型コロナ感染症の広がりのなか、感染症対策をせざるを得なくなり、メンバーの皆様からセンターにお越しいただくことができなくなり、対面での開催もままならない状況が続きました。書面での開催が続くなか、どのように活動の様子などをお伝えできるか検討し、スタッフ手作りでの「センター紹介」「避難訓練の様子」を動画でお伝えすることができました。センター紹介はスタッフがそれぞれ事業所内を案内し、普段は見ていただけない浴室やコロナ禍での「窓越し面会」の様子を撮影しました。避難訓練の様子では、メンバーの皆様に視聴していただくことでご意見をいただき、私たち自身も訓練の振り返りができ、次の訓練へ活かすこともできました。（メンバーの方には交番の署長さんもおられ、貴重なご意見をいただきました。）

そして今年度は5月に、感染症も収束しつつあるなか、第1回目の開催を久しぶりの対面で行い、メンバーの皆様の声を直接お聞きする事ができ、本当にうれしく思いました。

運営推進会議での取り組み

小規模多機能型居宅介護深沢
管理者　松田 悠一

本来であれば、事業所に委員の皆様よりご来所いただき、事業所の活動やご利用者の生活の様子などを見ていただきながら、事業所の状況報告や地域での福祉に関することについての検討を行います。しかし、昨年度はコロナ禍で、集まっての会議ということが難しい状況でした。集まれないながらも委員の皆様を中心に地域の方と良い関係を築くための取り組みは必要です。資料を配布する時、ただ渡して立ち話をするだけではなく、毎回15分～30分程度の時間をいただき、資料を見ながら事業所の取り組みの話や今、地域でのどんな事に困っているのか等、個々の委員の皆様とやりとりをさせていただきました。

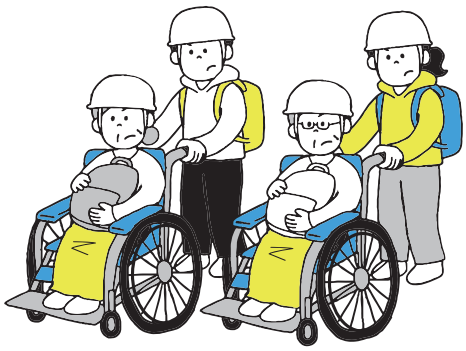
関係性が築けるまでは話も盛り上がる事はなく、ただ、事業所の報告をして終わる事もありましたが、関係性が築けると地域の事を少しずつ話していただける様になりました。

昨年度、一度だけ対面での会議を行う事ができ、活発な意見交換ができたので嬉しく思っています。

これからも地域の皆様と良い関係を築き、ご利用者のみならず、地域の皆様とも支えられる関係を目指してまいりたいと思います。

センター紹介

避難訓練の様子



看護小規模多機能型居宅介護のしくみ
～長岡市における看多機大島の存在意義～

看護小規模多機能型
居宅介護大島
管理者
大矢 泰三

看護小規模多機能型居宅介護（看多機）とは、要介護状態となった場合においても、利用者が可能な限り慣れ親しんだ住まいで生活が送れるよう、その療養生活を支援し心身の機能の維持回復及び生活機能の維持または向上を目指すサービスです。２０１２年に「退院直後の在宅生活へのスムーズな移行」「がん末期等の看取り期、病状不安定期における在宅生活の継続」「家族に対するレスパイトケア、相談対応による負担軽減」を目的として制度化された事業となります。要介護１から利用することができるサービスであり、家庭的な環境と地域住民との交流の下で介護と看護の一体的なサービスの提供を受けることができる特徴を持っています。

当事業所の利用定員は29名となっており、通いの定員は15名、泊まりの定員は6名で運営をしており、看多機サービスとしては長岡市で唯一の事業所となります。

また、訪問看護が加わったことによって、今まで受け入れが困難であった医療依存度の高い人や、退院直後の状態が不安定な人、自宅での看取りを希望する人への在宅療養生活を可能にすることができます。

さらに、１つの事業所で様々なサービスを利用できるので、馴染みのある職員にケアしてもらえる安心感があり、環境や人の変化にうまく馴染めない方にもおすすめです。

当事業所周辺には医療機関や老人保健施設だけでなく、ケアハウス西長岡（軽費老人ホーム）、ユニバーサルハイツ大島新町（サービス付き高齢者住宅）もあり、医療と介護、看護、住まいの緊密な連携により、慣れ親しんだ地域社会で安心して生活を送ることができます。

看多機サービスについてもっと詳しく知りたい方はぜひ一度お問い合わせください。サービス提供のシミュレーションなど、1月分の利用料金なども含めてご提案をさせていただきます。

～問い合わせ先～

看護小規模多機能型居宅介護大島
長岡市大島町字谷内甲１１６１番地
ＴＥＬ：０２５８－２８－２１６１
担当：大矢

こぶし園の住居系サービスの紹介
～在宅支援型住宅・バリアフリー住宅・サービス付き高齢者向け住宅・ケアハウス～

皆さんは、ご自身の『住まいや暮らし』について、考えた事はありますか？ こぶし園では長岡地域8カ所に住宅系のサービスを展開しています。それらは共通して「建物がバリアフリー」であり、「2階建て以上の建物にはエレベーターが設置」されておりますので、車椅子の方も生活できます。また、ケアハウス以外は食事の提供はありませんが各種配食サービスがご利用いただけます。そして、身体機能の低下等により介護が必要な要介護状態になった場合でも、介護保険等のサービスをご利用頂く事が可能です。入居前にご利用されていたサービスをそのまま継続して頂くことも可能です。

ユニバーサルハイツの紹介

（在宅支援型住宅）小規模多機能型居宅介護川崎
計画作成担当者　髙野 信之

ユニバーサルハイツ川崎を例に紹介します。

ユニバーサルハイツ川崎（10床）は、1階に特別養護老人ホームと小規模多機能型居宅介護があり、配食サービスも併設されています。

現在、7名の方がユニバーサルハイツに入居しながら、小規模多機能型居宅介護を利用しています。自分の時間を大切にして生活されている方は、短時間の『通い』利用で入浴や交流をして過ごされています。「今日はもう少し居たい」という日は、時間を変更して、いつもより長めの時間、他者と一緒に過ごす事も出来ます。また、利用日でなくても、「寂しくなった」「心配事がある」という時は、1階へ降りて来て小規模多機能型居宅介護に顔を出し、馴染みの職員に相談する事で安心して生活する事が出来ています。交流で知り合った方同士で、挨拶を交わしたり、部屋の行き来をする仲になる事もあります。毎日、決まった時間に1階へ降りて、皆と一緒に体操をする事を日課にされている方もいます。

『訪問』では、体調確認、服薬の見守りや介助、掃除の手伝い、受診の送り出し等を提供して、一人での生活を支えています。緊急時は、テレビ電話を通して話しを聞き、必要時は駆け付けます。住み慣れた地域で暮らしたい。介護の手伝いや生活のサポートがあれば安心出来る。その様な意向に添える、住まい・サービスとなっています。

サービス付き高齢者住宅の紹介

ケアプランセンター平島
管理者　中嶋 智恵子

大島新町と平島にあるサービス付き高齢者向け住宅（以下サ高住）は施設ではなく住宅であるため、決まった日課等はなく入居されている方それぞれのペースで過ごすことができます。各お部屋には、ミニキッチンや手すりのついたお風呂場が完備されています。そのため、宅配弁当を利用する事も出来ますが自分で食べたいものを調理したり、自分の好きな時間に入浴する事もできます。サ高住は、「サービス付き」なので、日中の時間帯は支援員が建物内に常駐し、毎日の安否確認や生活上の相談援助、その他緊急時の対応といった支援を行っています。支援員がちょっとした困りごとのお手伝いもするので、一人暮らしや夫婦だけの生活に不安を感じるようになっても、入居者様のペースで生活を続けることができます。住宅であるため夜間は職員はいませんが、テレビ電話を使って緊急時や困りごとがあったときに園内の職員に連絡が取れる体制になっています。このテレビ電話は、夜間だけでなく日中の緊急時にも使うことができるので、昼夜問わず一人暮らしでも高齢夫婦だけでも安心して過ごすことができます。

ケアハウスの紹介

ケアハウスしなの
施設長　長澤 剛

「ケアハウス」は自立した生活に不安のある方や高齢に伴い独立して生活するには不安がある方がご利用になれます。なお六十歳以上の親族の方とご利用される方は六十歳未満の方でも入居（二人部屋）可能です。居室にはトイレ、ミニキッチン、押入れ、呼び出しコールが備え付けられており、ケアハウスしなのには全部屋に浴室も備え付けてあります。厨房からの三食温かい食事の提供、緊急時には深夜でも職員が駆け付けて対応しております。お食事は食堂で摂って頂きますが、それ以外は入居者それぞれの過ごし方で、自分なりの一日の過ごし方、趣味、運動等を持続可能にしていく事が出来ます。

こぶし園では暮らしたい地域社会で生活を続けられるよう24時間365日連続する介護サービス、3食365日の配食サービスと共に、個々の生活スタイルに合わせる事が出来るよう住居系サービスを展開しています。施設毎に特徴がありますのでお気軽に各サポートセンターにお問い合わせ下さい。

こぶし園インフォメーション

高齢者総合ケアセンターこぶし園では、毎年度職員の入替を行いながら、各委員会を設けております。その中で今回は、「防災委員会」と「リスクマネジメント委員会」にスポットを当てながら、それぞれの委員会で取り組むべき課題、解決手段等をご紹介していきます。

防災委員会

特別養護老人ホーム千手
業務課長　髙橋 和哉

近年多発する自然災害や感染症からご利用者の安心・安全な生活をどう守るか、職員が安心・安全な業務をどう遂行するかを柱に、各サービスの代表職員で構成する防災委員会では、主に以下の取り組みを行っています。

①防災・感染症 BCP の策定・見直し

BCP とは事業継続計画のことで、災害発生時や感染症、特に新型コロナまん延時でも事業やサービスを中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方針や体制、手順等を整理し、各事業所への整備を進めています。

②水害時の初動対応へのしくみ作り

大雨による地区浸水や河川決壊に備え、ご利用者をどう避難させるか、職員はどのように参集し対応するか、園全体での協力体制の構築を目指しています。

③防災・感染症対策に係る情報等の周知・啓発

何よりも職員一人ひとりが防災や感染症対策への意識を高め、いざという時に行動できるようになるために、職員に必要な情報や有益な情報を発信し、啓発を行っています。

また、防災や感染症対策は頭でのイメージだけでなく、実際に様々な想定をした訓練を通じて理解することや、身につくことも多くあります。各事業所でも平時から訓練を重ねいざという時に現実的・効率的な対応が取れるよう努めて参ります。

リスクマネジメント委員会

グループホーム上除
業務課長　丸山 欽央

介護という仕事の目的や意義を踏まえ「安心・安全なサービスの提供」を実践できるよう、介護現場にふさわしい事故防止活動への取り組みを行います。

生活を支援する仕事であるため、自分（職員）の行動に非はなくても、利用者の行動が原因で事故が起こることがあります。「防ぐべき事故（介護事故）」「防げない事故（生活事故）」を区別し、防ぐべき事故（介護事故）について、組織で事故防止に取り組む体制を整備します。

〈主な活動内容〉

・事故基準の周知（長岡市報告基準含む）
・事故集計、事故傾向の取り纏めおよび報告、注意喚起
・事故要因に基づく改善策検討方法の確立
・誤薬事故防止への取り組み

介護現場の事故は職員のミスだけが原因で起こるものではありません。職員要因が大きいものであっても、その原因はそれぞれ異なるため「慎重に」「注意深く」というだけでは事故防止には繋がりません。ミスには必ず原因があり、きちんと状況を検証しない限り同じ原因で事故は起こります。

原因を明らかにし対処することにより、利用者・職員が安心して生活や仕事ができる環境を整えます。

編集後記

この度、こぶし園は令和4年4月をもちまして、満40年を迎えることができました。ひとえに、地域の方々の支えがあってのことと、感謝申し上げます。

ささやかではありますが、こぶし園と致しまして、40周年記念誌を作成しましたので、左記のQRコードを読み込んで頂いた上で、40周年記念誌のご回覧を楽しんで頂けば幸甚です。

（広報委員一同）

ネットワークこぶし
TEL (0258)46-6610
FAX (0258)47-1243
社会福祉法人 長岡福祉協会
高齢者総合ケアセンターこぶし園
〒940-2135新潟県長岡市深沢町2278-8
URL http://www.kobushien.com
E-mail info@kobushien.com